

めぐみイエス・キリスト教会

2018年6月3日(日)第一主日礼拝
週報「通算第408号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈禱会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年6月3日(第一主日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌203「ああイエス君こよなき友よ」p. 304

【交読文】 No.59 第Ⅰヨハネ第4章 p. 927

【賛美Ⅱ】 新聖歌266「罪とがを赦され」 p. 418

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2 「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書14章19節(p. 192上段左側)

【祈 禱】

【説 教】 《あなたがたも生きる》鈴木 竜実 牧師

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 ヨハネの福音書14章19節

14:19「いましばらくで世はもう私を見なくなります。しかし、あなたがたは私を見ます。私が生きるので、あなたがたも生きるからです。」

●ポイント1 「世はもう私を見なくなる」とは？

※ヨハネの福音書9章3節～5節「誰も働くことの出来ない夜」(新約p.173)

9:3 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。

9:4 私たちは、私を遣わした方のわざを、昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。

9:5 私が世にいる間、私は世の光です。」

●ポイント2 「しかしあなたがたは私を見る」とは？

※ヨハネの福音書20章24節～29節「いなかったトマス」(新約p.205上段)

20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一緒にいなかった。

20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがたにあるように。」と言われた。

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私のわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

※ヨブ記19章25節～27節前半「ヨブの言葉と預言」 (旧約p.801上段)

「私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に、ちりの上に立たれることを。私の皮が、このようにはぎとられて後、私は、私の肉から神を見る。この方を私は自分自身で見る。私の目がこれを見る。他の者の目ではない。」

●ポイント3 「あなたがたも生きる」とは？

※第一コリント15章12節～23節「ひとりの人を通して」 (新約p.311上段)

◎先週のメッセージの概要【あなたがたの所に戻って来る】

《主イエス様は、ゲッセマネの園に行かれる前に、十一人の使徒たちに、はっきりと約束されました。「私は、あなたがたを捨てて孤児にはしません。」と。

孤児とは、両親もなく、身よりもなく、ひとりぼっちの子供を指します。この言葉から一時ですが、彼らがその立場に置かれることが預言されています。

事実、イエス様が十字架にかけられ死なれた時、すべてを捨てイエス様に従って来た十一人の弟子たちは、まさに暗闇と絶望を味わうこととなります。

しかし生前にイエス様は、何度も彼らに「よみがえる」ことを預言されました。しかもその雛形として、ベタニヤのラザロをよみがえらせたのです。

イエス様は、「私は、あなたがたの所に戻って来る。」と預言されました。この預言には、実は三つのケースがあるのです。

一つは、まさに埋葬されてから三日目に、イエス様は弟子たちの前に姿を現わされたことです。マルコの福音書には、『しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いている所に現われて、彼らの不信仰とかたくな心をお責めになった。それは、彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったからである。』と書き記されています。

そして二つ目は、弟子たちの見ている間に、イエス様がオリーブ山から昇天された十日後の五旬節に、聖霊が降りました。イエス様は、もうひとりの助け主、聖霊として戻って来られたのです。真に神様は共におられるのです。

そして三つ目は、イエス様の再臨の時です。これはイエス様が、花婿として花嫁である教会を迎えに来る「空中再臨」の時で、すなわち「携挙」を表しています。この時、イエス様を信じている者で、生きている者は、ラッパの音と共に、一瞬に空中に引き上げられ、そこで主とお会いすることになるのです。

そして人類が滅びる寸前に、神様が人類の歴史に介入されます。その時が、本当の再臨です。主と共に、私たちはこの地上に戻って来るのです。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、6月10日(日)午前10時から行ないます。また聖書研究・祈禱会は、6月6日(水)午後6時15分です。

2. 鈴木師は、6月5日(火)下妻朝禱会において礼拝奏楽と、特別賛美(五味渢玲子さん)の伴奏を担当します。また6月19日(火)市川朝禱会において、奏楽とメッセージを担当します。祈りに覚えていただけたら幸いです。

